

身 体 表 現

— わかくさ幼稚園の子供達 —

飯 田 正 江

昨年度の終り頃、丸子町立わかくさ幼稚園より依頼され「身体表現」の研究会を行った。そして今年度にはいり年間を通して、研究を進めることになった。この園は、年少・中・長とそれぞれ1クラスで、園長、保母3人の小規模幼稚園である。園全体で、これにとり組むこととなり、この事が、今回の研究の成果を上げる大きな要因となった。

今回の岡本先生の発表は、その中の一部分で年長児の場合であった。この発表の他に、年少、年中についても、同様に研究を進め、発表時点での約10ヶ月間で、子供達の成長はめざましいものがあった。年長児の年間計画の中から今回「カマキリ」を中心に、又運動会に発表した「じゃがいも」にもふれ、発表していただいた。児童文化研究大会当日は、ビデオがあり、子供達がカマキリと遊んだり、絵を描いたり、粘土を制作したりと、他領域と関連を持ちながら、カマキリのイメージを胸いっぱいにつくらませ「身体表現」においても、そのイメージが個々に工夫され、豊かな表現で発表されていた。生き生きとした子供達のカマキリは、カマをふり上げたり、すばやく獲物を取ったり、食べたりする動きをし、続いて、羽をばたつかせ飛ぶ、という一連のフレーズをくりかえしていた。これは、前半の動きがモチーフとなり、自然にフレーズが成立していた。このフレーズというのは、人間が感じる「ひとまり」であるが、子供達も始めからこの感覚を持っている子もいる。このクラスにも始めから3人の子供がこの感覚を持っていたが、表現を重ね、友達の発表を観たりしているうちに、この時期になると、ほとんどの子供達が持つようになる。そうすると、フレーズ

をくり返す楽しさ、そしてそこから次の運動の工夫や発展が可能となり、表現している時間が長くなる。子供達は表現しながら、カマキリになりきり、工夫し、動きを創造し、そして、自分の納得できる動きをひろい出し、反復し、リズムを楽しんでいる。そして、皆の前でひとりずつ舞台へ立って発表するが、自分の動きを前の通り覚えていて発表することができる能力も持っているし、時には、発表の場になると、先程よりずっとよい表現をしたりもする。友達のを観て、そして、そこから自分の動きを客観的に観て、すばやく新たな表現を生む創造性もあるのである。

さて、今回は、年長児の発表であったが、この時、年中児の「カマキリ」を見せていただいたので述べる。子供達は、カマを表すのに、指を2本又は4本つき出してはう形で表わしていた。あお向けになって手足をバタバタさせたり、飛んだり、じっと止まったりしている。舞台上で発表したが、フレーズ感があったのは2人で、ひとりは、はう、飛ぶ、カマをふり上げるの動きをくり返し、又、ひとりは、立ったまま体を前屈して手をついて歩き、体全体を持ち上げるようにポンとそのままの形でジャンプすることをくり返していた。全体に動きは小さく、空間もあまり使っていない動きが多い。そして、「もう一度自由にカマキリになってください」という保母の声と同時に皆すぐ又、カマキリになりきる。女の子2人が並んで話しながら、けんかをしたり、飛んだり、食べたり、ピアノにはりついたり、次々に変化させながら発展していく。2人で動きながら話す場面を設定し表現している。イメージを次々にふくらませ楽しんでいる即興的な表現である。この場合は、後で発表してもらうことは考えず、次々に広がる表現を楽しんでいいと思う。

さて、年少児は、「トンボ」をやった。羽を広げてとび回ったり、じっと小さくなって止まったり、虫をつかまえて食べたりした。そのうちに、物の影に次々に入っていくって、「トンボつかれたの、おうちなの」等言いながら一休みしていた。発表を3人にしてもらったが、羽を広げて走る、虫をつかまえて食べると、飛ぶ、ねる、はねる等、言葉でいいながらやっている。年少児をみていると、トンボをしながら、それを何となく擬人化し表現しているようである。

以上、年長・中・少と、特徴と思われる点を述べたが、身体表現の場合、個人個人が皆それぞれに特徴があるように、その段階も、その子供の感覚によるところが大きい。

く、個人差がかなりある。しかしながら、この10ヶ月の研究会を通して、確実に子供達が大きく成長した。

表現活動の前に導入として即興を行ったが、その成長はすばらしかった。年少児は、始めから楽しんでやっていたが、この頃になると、ひとりずつ前に出て踊れるようになった。それがみごとに動きを変化させながら踊るのである。15年余りの私の経験の中では初めての事であり驚かされ、感動した。年中児は始め、なんとなくつまらないという感じで踊っていたが、運動会を過ぎる頃から、皆生き生きと楽しく、上手に踊るようになって、その変化に驚かされた。年長は、始めから女の子に上手な子がいて、そのうちに男の子が良く動き、楽しんで、15分ぐらいは平気で踊っているし、もちろん、皆積極的にリーダーになって踊った。

子供達は即興で自由に踊って楽しみ、そして題材の表現により、観察したり、発見し、動きを創り出し、何度も工夫し、そのものになりきる楽しさ、リズムを反復する楽しさ、表現し、友達の発表を見る楽しさ等、「身体表現」を通し、楽しみながら多くの事を学び心身共に育っていく。

今回このように成果が上ったのは、園の先生方が熱心に取り組まれ、楽しんでやっていた事が、子供にも自然と伝わっていったのであろう。改めて子供の創造性の豊かさに感動し、楽しい意義のある研究会であった。

(本学 教授)